

令和3年に柴田町で新規就農した宮崎和之さんは、丸みがあり独特な形状の葉で人気のある多肉植物を栽培している。地域の販売イベントや寄せ植えワークショップを通して魅力を伝えながら知名度アップに尽力している。

宮崎さんは作業療法士として勤めながら、約17年間趣味で多肉植物を栽培していた。過去には自ら輸入して販売を行っていたが、仕入れるよりも、自分で育てたものを広めていきたいと強く思ったことが就農のきっかけだ。

## お客さんに説明する宮崎さん



## ハウスで栽培している多肉植物



宮崎さんは前職で知見のある園芸療法の観点から、イベント販売の際に「ストレス社会に多肉植物の癒しを」と書いたショップカードを添えている。

植物の魅力について「それぞれに個性のある色や形に可愛さがあり、日々の生活に癒しを与えてくれるもの」と語る。

【記事提供】柴田町農業委員会

多肉植物を育てる上で必要となるパイプハウスは、町職員の紹介で得た農家の空きハウスをリニューアルすることで確保した。